

防災・しらかた

＜ 白方区自治会 防犯・防災委員会 防災部会発行 ＞

第 8 号
R6年9月
発行責任者
佐藤 一也
080-6713-1970

スローガン: **あなたと、あなたの家族の命を守る地域の防災活動**

白方地区防災訓練に参加して

《防犯・防災委員会 佐藤 一也》

8月3日（土）に白方地区の防災訓練が実施されました。当日の主目的である基幹避難所（白方コミセン）に実戦方式で避難が実践されました。

白方区は主に「要支援者」の避難に携わり白方区で担当している計

7人の安否確認、避難を無事に完了させることが出来ました。自治体の指示のもと白方区自治会役員、安心サポーター、防災部員、民生委員、特に要支援者様本人の協力に感謝します。

白方区自治会防災訓練

5月19日（日）に定例の防災訓練が白方集会所に於いて実施されました。 ※参加者 47名

当日「東海消防署」の指導の下、消火器の消火訓練や簡易担架の作成方法、又、自家発電機始動方法、防災機器の取り扱い等が実践されました。

防災講話

7月28日（日）に「東日本大震災」の語り部として著名な北茨城市在住の久保田三枝子様、テーマ「経験してわかる地域のつながり」で講演していただきました。 ※参加者 44名

＜講演内容の要約＞

- ① 電気がなくても摂取できる、食事と水分の確保
- ② 次の日の着替えを風呂敷に包んで、枕元に置く
- ③ 災害時に持ち出すリュックは、確実に持ち出せる場所に置いておく
- ④ 顔の見える日常活動が大切
ex 常会の日常活動、神社の祭りなどの絆、花植え隊 etc
- ⑤ 災害時の記録を確実に
ex 献立、数量、現場の聞き取り etc

防災士資格取得について

将来的に「防災士」資格取得を希望する方は連絡してもらえれば取得時期、講習内容、申請方法等お知らせします。

防犯・防災委員会 佐藤 一也 (080-6713-1970)



＜防災講話＞



＜ 白方区の防災力を考える ＞

白方区の防災力について考えます。
考えるポイントは四象限分析で ……

- 1) ハード面から
防災の機器、設備などのハード面の充実度
- 2) ソフト面から
自治会の体制、訓練内容、啓蒙活動、地域のコミュニケーション
➡ お祭り、子供会などは、濃密

高い
↑
備品、防災設備、機器
↓
低い
（防災のハード面）

① 第一象限 ハード面は充実しているが、ソフトの活動面が不十分	② 第二象限 ハード面も、ソフト面の活動も充実
③ 第三象限 ハード面もソフト面も活動が不十分	④ 第四象限 ソフト面は充実、ハード面は不十分

低い ← 高い
（防災のソフト面）

自治会の体制、訓練の内容
防災マップ活動などの情報・広報活動

さて、白方区は、四象限のどこに入るのでしょうか？ 考えてみたいと思います。
私の感じを黄色の丸印で示して見ました
① ハード面では充実している方か？
② ソフト面では、課題が多い？

決断力の強い地域の事例

（神社の祭り）
役割が決まる
・指揮を執る人
・事務を担当する人
・物の準備をする人
・連絡をする人
・交渉をする人
⇒ 昔の町内会のお葬式です

＜ どうすれば、課題を克服し、レベルアップができるか ＞

- ① 日常のコミュニティ活動が大切
（隣近所の日ごろのお付き合いは緩くても、緊急時は助け合う関係）
- ② せめて、**回覧板**を回すときは、**玄関での声掛け**をしたいものです
- ③ 日ごろの挨拶

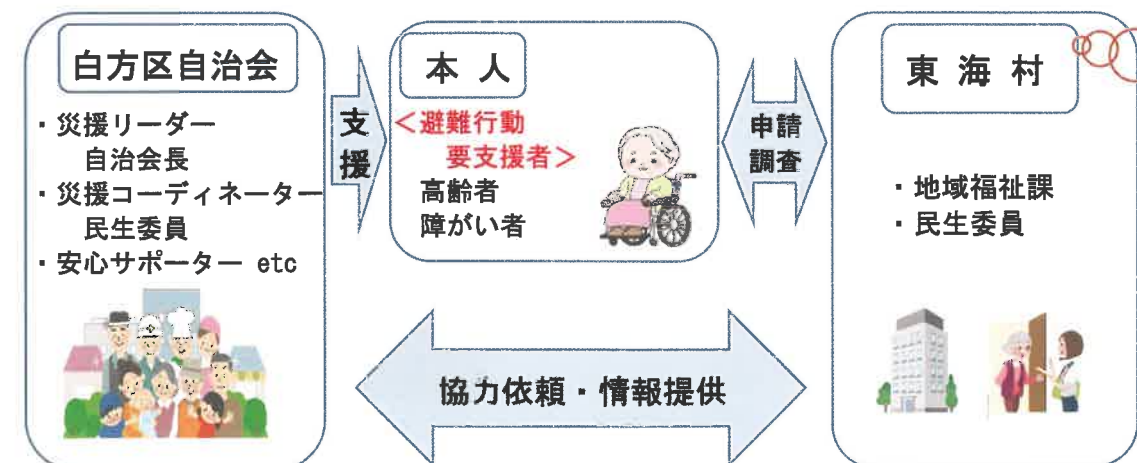
挨拶は、町内の人だけではなく、通りがかりの知らない方にも、声かけを行うことが肝要です。

なぜ、**知らない方にも挨拶**をするのでしょうか。
声かけによって、この町内は、他人の目が強い、コミュニケーションが強いと感じます。
ここでの犯罪を避けるようです。

現実には、地域活動の減少・高齢化など
近所の関係は、希薄化している

犯罪者が嫌いなもの
「音と光と他人の目」

＜ 安心サポーターへの協力お願い ＞



ご協力をお願い
・村では要支援者を地域で支援するシステム（災害ボランティアセンター）を実施しております。
・白方区では、現在7名の要支援者を担当しております。
・このための安心サポーターは、12名
・白方区として、安心サポーターの推薦をお願いする
・ご協力をお願いいたします。

＜ 編集者からひと言 ＞

今回は身近な防災リーズをまとめてみました。防災のための準備は、際限がありません。どんなに準備しても災害から逃れることはできません。「無理せず、出来ることから」始めましょう。
編集担当 上野洋二(Tel 284-0981)